

ちのよめ
チカラが復興につながる



NPO × 若者
= 復興!!

令和2年度 NPO強化による復興創生事業

チャレンジインターンシップ事業 事業報告書

NPO × 若者 = 復興!!

インターン修了生の皆さんが、NPO法人の活動を通して有意義な時間を過ごされたことを嬉しく思います。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、人と人の接触を伴う対面での活動に制限がある中、NPO法人の皆様にはオンラインの活用や新しい生活様式の実践など感染症対策をしっかりと行いながら、丁寧かつ熱心に、参加者の指導にあたってくださいました。

また、コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社には、インターン生が安心して生き生きと活動できるよう御協力をいただきました。

本事業は若者が、県内で復興・支援活動等を行うNPO法人でインターンシップを行うことで、若者の県内定着を促進するとともに、NPO法人の事業の活性化に繋げていただくことを目的としております。

NPO法人は、地域に寄り添い、柔軟かつきめ細かな活動を通じて社会の多様化するニーズに応えるなど、復興や地域の活性化を進める上で大切な役割を担っております。

県では、今後も民間企業等と連携しながら、地域に寄り添い様々な活動を展開されているNPO法人の支援などを通して、本県の復興をはじめとする地域課題解決に取り組んでまいりますので、今後ともお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、インターン修了生、NPO法人及びコカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社の方々を始め、関係の皆様のご多大なる御尽力に厚く感謝を申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

福島県企画調整部文化スポーツ局
局長 野地 誠

目次

▶受入れ団体・学生紹介	P5
▶インターン生アンケート	P16
▶受入れ団体アンケート	P18
▶インターン修了生アンケート	P20

参加NPO法人

福島

NPO法人
0073(おおなみ)

P5

特定非営利活動法人
福島就労支援センター

P6

特定非営利活動法人
ビーンズふくしま

P7

二本松

特定非営利活動法人
がんばろう福島、
農業者等の会

P8

特定非営利活動法人
あだたら青い空

P9

南相馬

NPO法人
南相馬サイエンスラボ

P15

郡山

認定NPO法人
キャリア・デザイナーズ

P10

特定非営利活動法人
ぴいかあぶう

P11

特定非営利活動法人
子育て支援コミュニティ
プチママン

P12

いわき

特定非営利活動法人
いわき環境システム

P13

NPO法人
甲斐っランド

P14

スケジュール

当事業は、「若者の学び・体験支援」をテーマとし、県内で復興支援活動をしているNPOで、高校生・大学生・大学院生・専門学校生が自発的かつ意欲的にインターンシップに参加することを通して、福島県の復興・創生に貢献することを応援します。また活動を通して、参加者自身が成長する機会となることも期待しています。

詳しくは [チャレンジインターンシップ 福島 検索](https://f-intern.f-saposen.jp)
<https://f-intern.f-saposen.jp>



新型コロナウイルス感染症対策のため、開始時期を遅らせて実施することになりました。

受入れNPO法人募集

7月14日(火)

学生募集

7月27日(月)～8月10日(月)

マッチング

受入れ学生及び受入れNPO法人決定

8月14日(金)

オンラインの日程調整や打ち合わせなども活動とみなされるなど、参加しやすい環境の整備がはかられました。

オンラインオリエンテーション

8月18日(火)～8月26日(水)

期間中、参加学生は一日の活動時間や日数を組み合わせて柔軟に活動しました。

インターンシップ実施

8月～12月

受入れNPO法人が取り組みや活動状況を報告しあい、共有する機会になりました。

メンター情報交換会

11月16日(月)

オンライン参加者も交え、ハイブリット方式で開催されました。

報告会・閉講式

福島市市民活動サポートセンター
 12月19日(土)



ページ	団 体 名	学 校 名	学 年	氏 名
P 5	NPO法人 0073 (おおなみ)	松韻学園福島高等学校	3 年	長谷川太一
P 6	特定非営利活動法人 福島就労支援センター	福島大学	3 年	大野 杏華
		福島大学	2 年	瀧 康司
P 7	特定非営利活動法人 ビーンズふくしま	桜の聖母短期大学	1 年	湯野川美穂
		松韻学園福島高等学校	2 年	渡邊ここな
P 8	特定非営利活動法人 がんばろう福島、農業者等の会	福島大学	4 年	渡邊 裕香
P 9	特定非営利活動法人 あだたら青い空	あさか開成高等学校	2 年	吉成 花音
P10	認定NPO法人 キャリア・デザイナーズ	桜の聖母短期大学	1 年	藤代琉希帆
P11	特定非営利活動法人 びいかあぶう	あさか開成高等学校	2 年	佐藤 愛海
P12	特定非営利活動法人 子育て支援コミュニティプチママン	太田看護専門学校	2 年	渡部 桃子
		あさか開成高等学校	2 年	阿部 莉奈
P13	特定非営利活動法人 いわき環境システム	磐城緑蔭高等学校	1 年	鈴木さや香
P14	NPO法人 甲斐っランド	磐城緑蔭高等学校	1 年	阿部 澄香
P15	NPO法人 南相馬サイエンスラボ	原町高等学校	2 年	渡邊日々生

今後も、福島の復興に向けたボランティアに積極的に参加していきたい。

復興に貢献することは難しいことだと思っていたが、インターンシップの経験を通して身近に考えることができた。

活動を通じて地域の良さを知ることができた。

福島でしか感じられないものがたくさんあった。

福島の食べ物に加えて、この活動と人が好きになった。

NPOはこの社会において最も必要な存在だと、改めて印象に残った。

積極性がない自分にも、できることがあると思えて、誰かを助けたいという気持ちを持った。



NPO法人
0073
(おおなみ)

- 所在地 福島市大波字古戸7-3
- 連絡先 TEL. 024-572-3193
- URL <https://www.npo0073.net/>
- 主な活動 大波の農産物である米、切り餅、干し芋の販売や福島県産の果物販売を実施しています。また、地域活動としてひまわり畑の運営、小学生対象の寺子屋、こども食堂も行っています。



受入れ団体コメント

福島市大波地区の営農支援を行うNPOとして4年目の活動になります。震災時に放射性物質が基準値越えの米が検出された大波地区の米でしたが、安全で美味しいものは受け入れられると信じ活動してきました。今では安全な大波の米を全国に販売し、2019年度米は8トンの取引ができました。昨年からは6次化商品の干し芋もラインナップに加え、農家の年収アップに向けた活動を進めています。インターン生は風評被害に興味を持っていたことから、参考になったのではないかと思います。



長谷川 太一 さん

松韻学園福島高等学校 3年 / 福島市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

大波地区で生活している小学生と触れ合う寺子屋・こども食堂や大波のお米や芋を使った切り餅加工、干し芋加工などを行いました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

大波地区の震災当時の被害状況や、風評被害の現状を知ることができました。まだまだ、大波地区だけではなく福島全体の風評が残っていることが分かりました。



Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

NPO法人0073で風評被害が原因で売れなくなったお米を餅に加工したり、大波の芋を使って干し芋を販売するまでには様々な問題があったことが分かりました。私自身できることは少ないですが、震災当時の事を忘れないようにしたいです。



特定非営利活動法人

福島就労支援センター

- 所在地 福島市宮代字宝田前2-4
- 連絡先 TEL. 070-4419-8412
- URL <https://npo-manabiya.org/>
- 主な活動 地域活性化や職業能力の推進と、性別にとらわれずのびのびと個性と能力を発揮し、情報交換や地域間交流を通じて誰もが生き生きと生活できる社会の実現を目指し日々活動を行っています。



受入れ団体コメント

インターン生には、農業交流会と子どもの無料学習教室「スタディセンター」の活動をしてもらいました。熱心に取り組んでいて、畑作業では避難者の方や地域住民とコミュニケーションを取りながら活動していました。スタディセンターでは、子どもたちに分かりやすく楽しく教えてくれました。スタッフも学びや気づきがあり、貴重な時間でした。



大野 杏華 さん

福島大学 3 年 / 新潟県妙高市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

インターンシップでは主に2つの活動をしました。1つ目は、子どもたちへ勉強を教えたイベントに参加する活動です。2つ目は、避難高齢者の方との農業を通じた交流です。農作のお手伝いや料理教室で避難高齢者の方々と交流をしました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

子どもたちとの交流は勉強を教えるだけでなく会話をする中で、その子自身を見てあげることが大切だと気づきました。また、農業交流では、避難高齢者の方々にとって農業というのは、生活の一部であり、生きがいであると学びました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

「避難者」というフィルターなしで今回の活動に参加できました。そのため、その人自身と「会話」をすることで、その人自身を知ることができました。今後これらの偏見や差別といった歪んだフィルターなしで人や物事を判断していけたらと思います。



瀧 康司 さん

福島大学 2 年 / 静岡県焼津市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

小中学生に勉強を無料で教える「スタディセンター」と、震災避難者の方と農業で交流する「農業地域交流」の2つに参加をし、交流会や勉強会の運営のお手伝いをさせていただきました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

地域の復興を考える際に、インフラや家屋などといった「物」の復興をすることだけでなく、勉強を教えることや交流会といった「人」の復興も並行して行っていく必要があると思いました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

大学の実習で実際に被災地へ行くこともあるので、その際に活かしていくだけでなく今後予想される大災害（都市直下型地震や、南海トラフ地震など）の復興の時に活かしていきたいです。



特定非営利活動法人

ビーンズ ふくしま

- 所在地 福島市矢剣町22-5
- 連絡先 TEL. 024-563-6255
- URL <http://www.beans-fukushima.or.jp/>
- 主な活動 様々な背景から生きづらさを抱えた子ども・若者が自分らしく生きるための支援を行っています。



受入れ団体コメント

今年度は2名のインターン生の受け入れをさせていただきました。フリースクールでの子どもたちとの関わりや子ども食堂での運営企画を中心に活動をし、コロナ禍の中でも、オンラインの活用やSNSでの発信等、若い視点での取り組みを行ってくれました。短い期間でしたが、団体としてもたくさんの刺激をもらいましたし、インターン生の皆さんにとっても意義のある時間になっていれば幸いです。本当にありがとうございました。



湯野川 美穂 さん

桜の聖母短期大学 1年 / 福島市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

主に子どもたちと交流する活動を行いました。一緒にお菓子作りや公園に行ったりすることを通して、子どもたちとコミュニティを築き上げる活動をしました。また、積極的に子どもたちに話かけました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

活動前は、子どもたちを励まし、楽しんでもらう事が子どもたちの望みだと考えていましたが、最も重要な事は、「子どもの心に寄り添い、安心感と居場所を与える」ことだと学びました。これからも子どもの心に寄り添い交流したいと思います。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

将来、教育の仕事に携わりたいと考えています。子どもたちとの交流から学んだ「安心感と居場所を与える」ことを忘れず、多くの子どもの心に寄り添っていくことができるよう、この学びを活かしていきます。また、子どもたちに楽しいアクティビティを考案したいです。



渡邊 ここな さん

松韻学園福島高等学校 2年 / 福島市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

私は、こども食堂よいだキッチンで活動を行ってきました。私を含めた高校生3人でクリスマスイベントの企画立案から当日の運営までを計画しました。残念ながら新型コロナウイルスの影響で当日は開催できませんでした。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

イベントは中止になってしまったものの、それまでの過程で得たものは私にとってとても大きな学びとなりました。全体を把握する広い視野を持ち、常に先を見て動くことができるようになったと感じました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

インターンの活動が終了した今こそ、ここで成長を止めることなく、まずは学校生活や自分のできる範囲から気づき考え実行し、さらに自分の可能性を広げていきたいと思っています。



特定非営利活動法人

がんばろう 福島、農業者 等の会

- 所在地 二本松市新生町490
- 連絡先 TEL. 0243-24-1001
- URL <http://www.farm-n.jp/>
- 主な活動 福島県内54の農家が協力して活動しています。インターンシップの活動はその中の二本松農園。きゅうりなど野菜の生産のほか、農業体験の受け入れなども行っています。



受入れ団体コメント

渡邊さんへ。この度のインターンシップ、お疲れさまでした。活動では暑い中の草刈りや定植、種蒔き、NPOの仕事など様々な業務に触れました。大変なこともあったかもしれませんが、渡邊さんなりに興味関心ごとをもって取り組んでいる様子が印象的でした。今後が変わっていても渡邊さんのペースで楽しく過ごしてくださいね。私たちとの時間が何かいつかのお役に立ったらとっても嬉しいです。



渡邊 裕香 さん

福島大学 4 年 / 宮城県仙台市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

団体としての経緯や活動紹介、NPO法人運営の手法について質疑応答、スタディファーム、野菜の種蒔き、収穫、畑整備、袋詰め、発送作業、田んぼ整備、稲刈りと籾乾燥見学などを行いました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

農業の楽しさや大変さ、里山の居心地のよさ、普段の生活が農家によって支えられていること、風評被害は単なる噂であり、顔の見える関係を築くことで払拭できること、NPO法人運営は熱意だけでなくシステムを構築し目標に向かう過程を明確にすることが大事であることに気づきました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

今後、NPO運営に関わる仕事がしたいと思っているので、NPO運営に関する知識を忘れずに、参考にしながら、自分独自の視点も大切にしつつ活動したいです。里山や農業などの自然を守っていくために、周りの人にも学んだことを伝えていきたいです。



特定非営利活動法人

あだたら 青い空

●所在地

二本松市岳温泉二丁目20番地11

●連絡先

TEL.0243-24-1518

●URL

<https://www.adatara-aoisora.com/index.html>

●主な活動

被災者支援ハイキング事業や不登校児童生徒の自立支援をすすめるフリースクール事業、地域のセーフティネット作りをすすめるこども食堂事業などに取り組んでいます。



受入れ団体コメント

二本松こども食堂ハラクッチーは、毎月2回地域の子どもや大人が集まって、一緒に調理・食事・片付け・遊びをし、地域の居場所作りをすすめるこども食堂です。参加されたインターン生には、こども食堂は地域の皆さんが交流することによって、地域の様々な課題に対応する場所であることを学んだことと思います。そして今回学んだことをこれからの進路や生活に活かしていただきたいと思います。また、遊びに来てください。



吉成 花音 さん

あさか開成高等学校 2年 / 郡山市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

私の活動は、月に2回二本松の福祉センターで開かれるこども食堂でのボランティアです。主に、その日作る料理の下準備や使用する器具・台所・机の消毒、料理をする子どもたちの見守り、その後の食器や器具、机の後片付けです。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

活動を通して、私は今までの“こども食堂”の概念が変わったことに気づきました。“こども食堂”は、ただ子どもたちがご飯を食べるだけでなく、親や地域の人々などと共に食事を取り、親子が安心して過ごせる環境を作る場でもあることに気付かされました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

私が活かしていきたいことは主に2つあります。1つ目は、自分なりに感じた“こども食堂”の在り方を、周りの人に広めていくことです。2つ目は、全く知らない人と喋るコミュニケーション能力の大切さです。特に2つ目は、今後社会の中で生きていく限り必要なことだと思います。



認定NPO法人

キャリア・デザイナーズ

- 所在地 郡山市昭和二丁目2番7号 さとうビル2F
- 連絡先 TEL. 024-973-5667
- URL <https://npocd.jp/>
- 主な活動

いわゆるニートやひきこもり経験者の社会参加・就労自立支援の活動を行っています。様々な活動に参加する中で、自分の適性や将来の方向性を見つけられるように活動を提供しています。それぞれの人に寄り添って良い伴走者となるように意識しています。



受入れ団体コメント

当法人がチャレンジインターンシップに参加するのは今年で5年目となりました。今回は、コロナ禍もあり、今までとは違った形でのインターンとなりました。WEB会議システムによるオリエンテーション等新たな生活様式による活動を経験しました。インターン生には活動を通じて様々な人と交流し、今までとは違う視点で物事を見る良いきっかけになったかと思います。今後の進路決定や職業人生にぜひ生かしていただきたいと思います。



藤代 琉希帆 さん

桜の聖母短期大学 1年 / 二本松市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

社会参加・就労自立に取り組んでいる方々と一緒に、パソコンでのプログラム学習やビジネスマナーを学びました。また、イベント時の会場準備や受付のお手伝い、売店での販売も行いました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

いろんな経験や考えを持つ方々とコミュニケーションを取ることで、新たな考え方や見方を学ぶことができました。「働く」ということがどのようなことか、また「働く」ということの見方が変わりました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

コミュニケーションを取る際に目を見て話したり、うなずいたり、当たり前ではありますが忘れがちなコミュニケーションの基礎を学べたので今後活かしていきたいです。また、私の夢はサービス業なので多くの人と関わりを持ち、コミュニケーション力を更に高めていきたいです。



特定非営利活動法人

ぴいかあぶう

- 所在地 郡山市静西一丁目226番地
- 連絡先 TEL. 024-926-0503
- URL <http://peekaboo373.com/>
- 主な活動 障がいの有無に関わらず、子どもたちの社会参加や居場所づくり、子どもも大人も安心して暮らせる街づくりを目指しています。



受入れ団体コメント

コロナ禍での実施となり、受け入れに不安もありましたが、感染予防に努め何とか役割は果たせたと感じています。日頃から子どもたちに関わる仕事としては、もっと距離を詰めて、触れ合う機会、経験を提供したいところでしたが、この状況でできる範囲での活動には満足しています。今回のインターン活動で、感じたことすべてが答えです。これからの将来に役立てばうれしく思います。



佐藤 愛海 さん

あさか開成高等学校 2年 / 郡山市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

- ・小中学生の子どもたちの宿題をみる
- ・トランプなどで一緒に遊ぶ
- ・サッカースクール
- ・大掃除
- ・工作
- ・避難訓練
- ・子育て支援をしているプチママンさんとの交流

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

- ・1人1人に合った接し方の大切さ
- ・見守る姿勢の大切さ
- ・楽しんで活動することの大切さ

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

- ・先入観にとらわれないようにする
- ・視野を広げる
- ・何事も楽しむようにする



特定非営利活動法人

子育て支援 コミュニティ プチマン

- 所在地 郡山市富田町字大徳南2-23
- 連絡先 TEL. 024-983-1925
- URL <http://petitmaman.or.jp/>
- 主な活動 郡山地域を中心に子育て支援をしている法人で、常設ひろばでの親子活動の他、出張での各種活動を行っています。



受入れ団体コメント

今年度はコロナの影響により、プチマン常設ひろばでの活動に参加してもらうことができず残念でした。子育てイベントのお手伝いとして参加してもらいましたが、回を重ねる毎に緊張しながらも積極的に親子と関わろうとする姿が見られました。今回の活動で、育児中のお母さんの様子に触れ、そこからの学びがあったようですが、将来の仕事やまたは自身が母親になった時、このインターンでの経験が役に立ってくれたらうれしく思います。



渡部 桃子 さん

太田看護専門学校 2年 / 郡山市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

親御さんとお子さんが一緒に活動するものや、別々に活動するものに参加しました。興味を持ってもらえるよう、会場の壁に飾り付けをしたり、親御さんにリラックスしてもらえるよう、子どもの見守り等を行いました。手遊びやペープサート（紙人形劇）にも挑戦することができました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

お子さんを持つ親御さんに関わることが少なかったため、お子さんを心配する表情や、一緒に楽しむ表情を垣間見ることができ、もっと親御さんに寄り添うことができる関りを磨いていきたいと感じました。また、スタッフの方の細やかな対応も勉強になりました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

将来、助産師になることが目標なので、親御さんとお子さんの両方に関わることができ、また、もっと積極的に関わっていけたら良かったという反省点にも気付くことができました。子育てに関わる目標を目指していく中で気持ちに寄り添う関りに活かしていければと思います。



阿部 莉奈 さん

あさか開成高等学校 2年 / 郡山市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

主に、親御さんが話を聞いている際に子どもの面倒を見たり、部屋の飾り付けをしました。また、リズムとからだの遊びでは、人形を子どもに見立て先生のお手本を真似して、親御さんに動作をわかってもらえるよう間に入っていました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

私の体調管理不足で何回か活動を休んでしまいました。休むことの連絡が遅れてしまったこともあり、予定の活動ができなくなったことも団体さんに迷惑をかけてしまいました。体調管理と連絡が大切だということを学びました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

今、進路について考えており、今後どのようにするのか迷っていましたが、今回のこのインターンシップを通して進路の幅が広がり、将来に向けての視野が広くなりました。インターンシップで学んだ経験を活かし、進路について改めて考えていきたいと思っています。



特定非営利活動法人

いわき環境システム

- 所在地 いわき市平赤井字田中10-7
- 連絡先 TEL. 0246-35-6242
- URL <https://www.iwaki-ks.or.jp/>
- 主な活動 東日本大震災ならびに福島第一原子力発電所の事故によってもたらされた甚大な被害と風評で傷ついた郷土を復興し、そこに住む人々の活力を取り戻すことを目的として産学官一体となり活動しています。



受入れ団体コメント

この度のチャレンジインターンシップふくしまにいわき環境システムが初めてインターン学生を受け入れたことにより、組織内においてとても新鮮さを感じました。短時間での活動ではありましたが、各種事業を改めて正す良い経験になりました。インターン生へは、興味と関心を得る為の多くの時事を捉え探究心と、チャレンジ精神を鍛えながらたくさんの人との交流を深めて知識を高めて励んでください。期待いたしております。



鈴木 さや香 さん

磐城緑蔭高等学校 1年 / いわき市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

- ・放射能、インターンなどについての座学
- ・公園や公民館、学校の空間放射線量測定（モニタリング実習）
- ・市内の学校、保育所の食品検査実習
- ・アカデミア事業の運営

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

今回参加して、放射能の知識や検査・測定について、また社会に出る上で必要なことを学びました。そしていわき環境システムさんのお仕事といわき市への貢献、奉仕についても知ることができ、関わることがなかったら知れなかったことをたくさん学びました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

いわき市も放射能の被害を受けましたが、私自身あまり詳しくなかったのが、今回学んだことを地域貢献や復興に活かしたいと思います。また、今後も様々な活動をしたいし、それだけでなく将来にも役立てていきたいです。



NPO法人
甲斐っランド

- 所在地 いわき市好間町大利103-1
- 連絡先 TEL. 090-3977-9397
- URL <https://kaittland.jimdofree.com/>
- 主な活動 帰還困難地域に残された犬、福島県内（他含む）の保健所にて、飼育放棄で持ち込まれた犬を迎え、里親さんに委ねる活動。



受入れ団体コメント

若い方に保護活動の実態を知っていただく良い機会をいただきました。犬を簡単な気持ちで飼う人が多過ぎるので。散歩（運動）の必要性や散歩のときウンチを拾うマナー。十数年後にはシニア犬となり看病が必要な場合も予測して購入することやもらう事の大切さ。その蛇口を止めない限り保健所での殺処分はなくなる事。福島県民…まだ田舎の考え、昔の考えの人が多いため、若い方からご家族の方へお伝えいただく良い機会となりました。



阿部 澄香 さん

磐城緑蔭高等学校 1年 / いわき市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

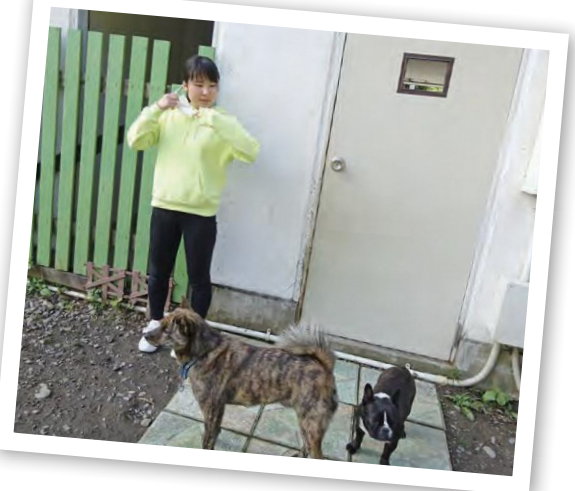
- ・ドッグランの整備（フン拾い、穴埋め、入口の掃き掃除など）
- ・犬たちとふれあい
- ・トリマーさんのお手伝い（シャンプー等）
- ・トリマー室の掃除

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

過去に人間に痛めつけられていた犬たちが、再び人間への信頼を取り戻すことは簡単ではないけど、可能なことなのだと思いました。人間に対して恐怖心があるはずの犬たちが、楽しそうに走っている姿や、人間に寄っていく姿を見て、これは下山さんが努力して犬たちを幸せにしてあげている証拠だなと感じました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

甲斐っランドさんでの活動を通して学んだ、思いやりの心や、誰かの為に一生懸命になることの大切さを忘れず、社会に出て色々な人から頼ってもらえたり、誰かを幸せにできる大人になりたいです。今回の経験を活かして、進路も考えたいと思います。



NPO法人
**南相馬
サイエンス
ラボ**

- 所在地 南相馬市原町区東町2-50
- 連絡先 TEL. 0244-26-6286
- URL <http://www.sciencelabo2011.com/>
- 主な活動 主に親子に対して自然科学・農業食育・環境保護・歴史文化等の体験教育活動を提供しているNPO法人です。



受入れ団体コメント

今回初めてチャレンジインターンシップ事業に応募し、インターン生を受け入れました。本事業を活用して良かった点は、インターン生の成長を見る事ができたことです。震災からの復興の為に、身近なもののそれぞれに物事の仕組みがある事を、体験を通して学ぶことが重要であるという私たちの考えを、イベントに参加し手伝うことを通して理解してもらえた様に感じています。またこうした事業があれば活用してみたいと思います。



渡邊 日々生 さん

原町高等学校 2年 / 南相馬市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

インターンシップでは、普段自分の学校ではやらない、稲刈りや畝立てと苗植え、脱穀などを現代の機械に頼らずに行ったり、講演会などの準備や、お手伝いなどをさせていただきました。また、子どもたちと一緒に活動しました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

活動を通して、身近なものについて改めて学ぶことができ、ただ体験をするのではなく、自分で考えながら行動をするという感じで、普段では味わうことのできないものでした。活動する前に比べ、活動した後は、とても成長したと思います。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

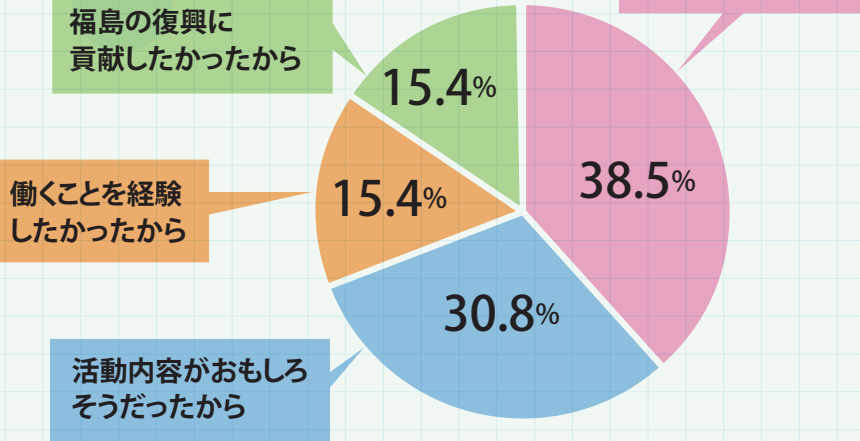
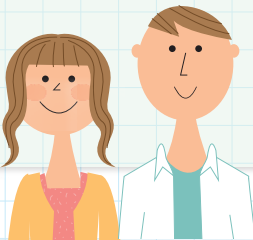
インターンシップで学んだことは、今度もっと必要になると思います。そのためには、学んだことを忘れないようにしていきたいと思いました。そうすることで、この先もこのことを忘れず、社会に出ても役に立ったと思えるような活用をしていきたいです。



令和2年度 チャレンジインターンシップ インターン生アンケート

Q1. インターンシップへの参加を決めた一番の理由は何ですか？

13件の回答



Q2. 活動してみてどのように感じましたか？



子育てをする親御さんの様子を直接感じることができ、将来に活かそうと思った。また、親御さんのニーズに合わせた体勢が、とても充実しており、自身が親になったときに参加したい、活用したいと感じた。



受け入れ先の人、参加している人も優しい、活用したいと感じた。



普段できないことができた。



オーナーさんが優しく、多くのことを丁寧に教えてくださって将来に活かせる体験もできた。



NPOについて学ぶことができ、自分の進路に新たな道ができた。



インターン生として受入団体の活動に参加でき、より学ぼうという姿勢になった。



(コロナの影響ですべての企画を実行することはできなかったが) 将来仕事をするうえで必要なことを経験できた。



フリースクールでのボランティアを通じて、人として大切な事を多く学ぶ事ができた。また、コミュニケーションやメールのやり取り等を通じて社会人に必要なスキルを高める事ができた。



実際に食品を加工する作業があり、裏側を知れた。



いつもの自分とは違う自分になれたし、学校では学ぶことができない、現実の社会に触れることができたような気がした。



NPOのことも職業のことも知ることができ、様々な人と触れ合えた。



自分の興味ある分野の仕事を体験することができ、学校生活の中では学べないこともたくさんあった。

※回答の構成比は少数第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはなりません。

Q3. 今回のインターンシップ活動を通して、あなた自身は成長できましたか？



自分自身が感じただけでなく事業者の方にも積極的になった、明るくなったと言っていた。できた。



対人能力、傾聴力、ビジネススキルを身につけることができた。今回の活動は私にとって初めての経験が多く、活動する度、大きな刺激をもらうことができた。また、多くの人とのお会いを通じて自分自身の長所や短所を見つける事ができた。



人と会話を続けられるようになった。



もう少し主体的に働きたかったと感じた。



今まで関わることのなかった人と関わって視野が広がった。



今後の就職に対する心づもりに変化があった。



様々な経験ができました。



同年代の子が周りにいなくても、やるべきことをできた。(自立できた)



子どもを目の前にしても、慌てなくなりました。



自ら考えて行動できるようになった。



日常生活では経験できないことが多くあり、今までよりも積極的に動くことができるようになった。

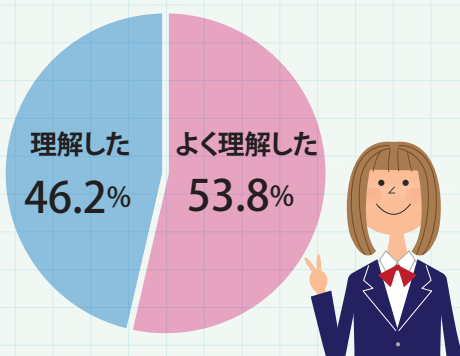


活動に参加したことも自分にとっては大きな進歩だし、相手の気持ちになるなど、改めて考えることができた。



インターンシップを通して専門的知識や働くことについて、また社会に出る上で大切なこと(プレゼンテーション作成や名刺交換など)も学ぶことができとても有意義なものだったと思うし成長できたと思います。

Q4. インターンシップ事業を通じて、NPOへの理解が深まりましたか？ 13件の回答



実際に働いている方とお話できた。

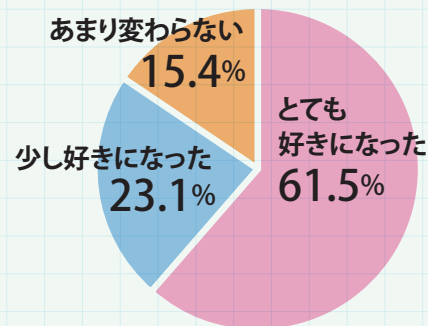


NPO法人の代表がどのような思いをこめて設立したかが分かりました。



職業の活動以外にもじっくりNPOの活動の話をしていただく時間があつた。質問に丁寧に答えていただけた。

Q5. 今までよりも福島県を好きになりましたか？ 13件の回答



できれば福島県外に出て新しい出会いが欲しい。



応募したからこそ、知ることができた福島の取り組みがあつた。



自分の知っている場所でも、まだまだ知らないことがあつた。また、福島の人達の良さを改めて感じる事ができた。

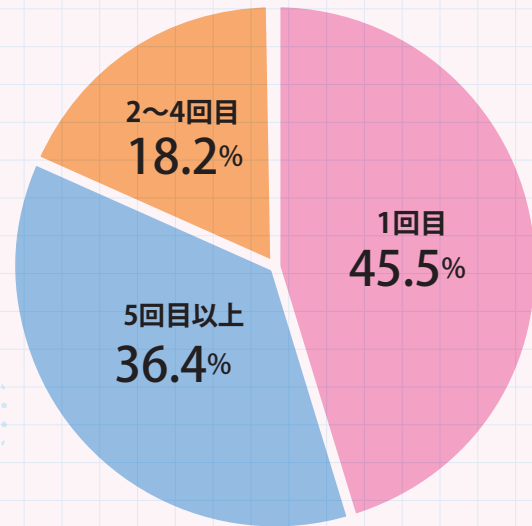
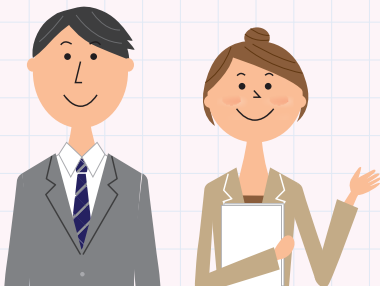


私は地元に着した企業に勤めたいと考えている。その仕事を通じて福島の復興に貢献していきたい。また、地元の人々に笑顔と元気を届けていきたい。

令和2年度 チャレンジインターンシップ
受入れ団体アンケート

Q1. チャレンジインターンシップ事業に
参加するのは何回目ですか？

11件の回答



Q2. 参加応募を決めた一番の理由は？



当法人が持つ事業活動を知ってもらいたかった。



こども食堂について多くの人に知ってほしかったため。



毎年応募しており、今年も私達の活動に興味を持って頂ける学生さんに会いたいため。



インターン生が参加することで、団体に新鮮さや新しい発想を取り入れるため。



活動を広く知ってもらいたいと思ったから。



地元の方々に活動の意義を伝えたいので。



フレッシュな人材と出会えるため。



地区を若者に知ってもらいたかった。



若い世代のこれからを共に考えることができる素晴らしい機会なので毎年参加させて頂いています。

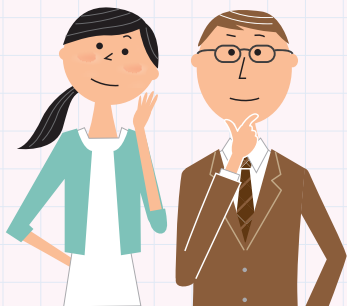


昨年までも参加していて、有意義な時間だったため。



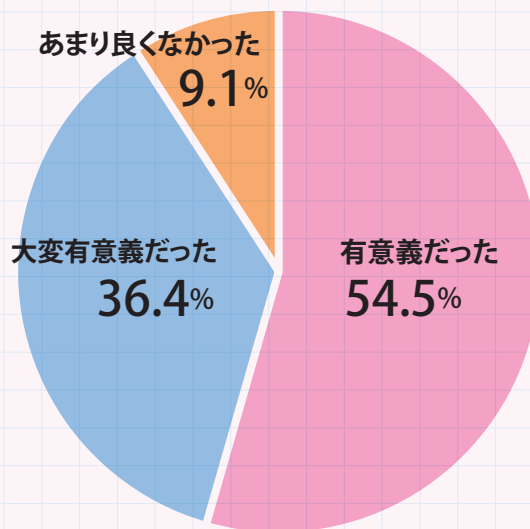
学生さんの学びの助力になればと思い参加させて頂いているが、当団体にとっても学生さんから意見等を聞くことで気付きや参考になることも多いので。

※回答の構成比は少数第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはなりません。



**Q3. インターン生の受け入れをしてみて、
どのように感じましたか？**

11件の回答



Q4. その理由は？



コロナ禍で、今までとは異なる新しい生活様式に対応した活動について考える良い機会となった。



大学生が考えること、興味関心ごとが知れたり、職場スタッフとの交流が生まれた。



素晴らしい学生との交流もできて、事業への関心と理解をしてもらえたと感じた。



当法人の活動に加わってもらい、学びと気づきがあったという声をいただき、スタッフの意識も高まった。



インターン生の成長を感じられた。



今年度は常設ひろばで活動してもらうことができず残念だったが、お母さんたち子どもたちも学生さんと接することでとても楽しそうな様子が見られたので良かった。



風評について考える若者がいるということを実感しました。



新たな視点に団体として刺激をもらいました。



コロナ禍で十分な受け入れができなかったが、インターン生自身楽しく活動できたようなので良かった。



学生さんもととても良い子でしたし、学校の研究発表にも今回のインターン活動をテーマにすると聞いています。



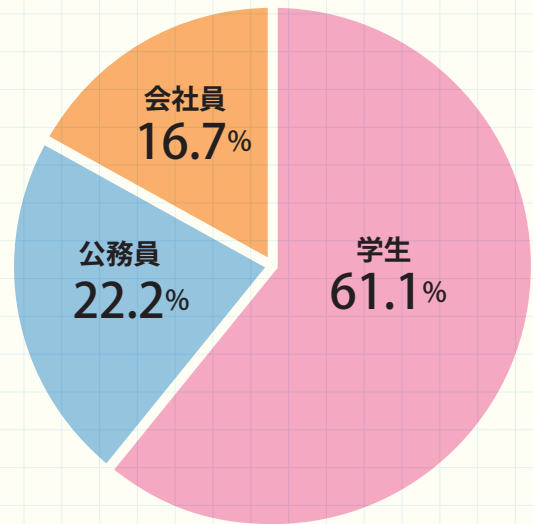
インターン生にこども食堂やNPO法人について理解してもらい、また本人の成長にもプラスになったと思われる。

令和2年度 チャレンジインターンシップ

インターン修了生 アンケート

平成27年度～令和元年度
チャレンジインターンシップ事業の修了生36名が
オンラインアンケートに答えてくれました。

Q1. 現在何をなさっていますか？ 36件の回答



Q2. 現在もNPOと関わりがある方の声

就職先に考えている



学生／福島県内在住

子どもたちの面倒を見るNPOに就職しないかと、
知り合いの人からお誘いを受けました。

ボランティア／寄付している



公務員／首都圏在住

ホームレス支援（食事作り、提供）、夜回り

NPOと仕事している



公務員／福島県内在住

生活保護のケースワーカーをしている。

ボランティアしている



会社員／東北地方在住

インターンに参加したNPOにずっと関わらせて
いただいています。コロナ禍と就職という事もあり、
ここ1年はなかなか行けておりませんが、普段の
活動やイベント開催時に顔を出しています。



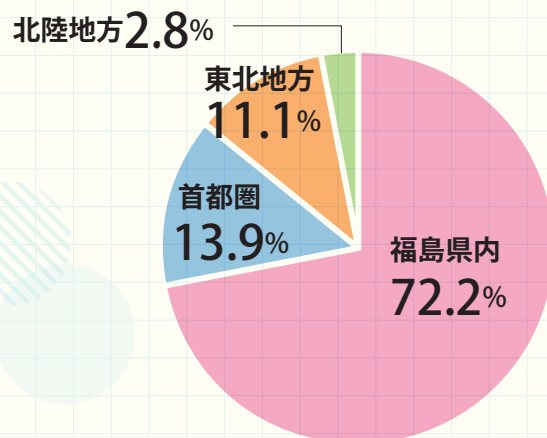
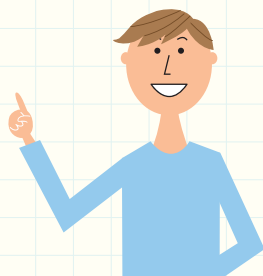
公務員／福島県内在住

現在福祉の部署にいるため、仕事上で
関わりがある。

※回答の構成比は少数第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはなりません。

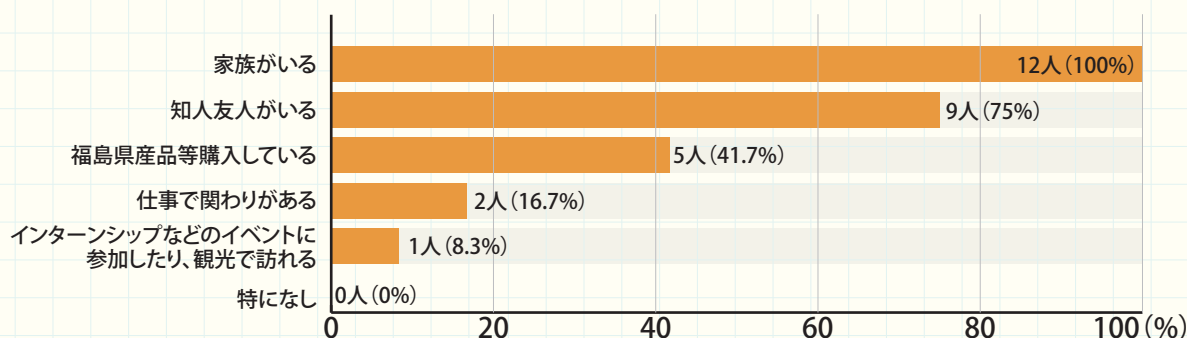
Q3. 現在どちらにお住まいですか？

36件の回答



Q4. (福島県在住以外の方)現在福島県との関わりはありますか？

(複数回答可) 12件の回答



家族／知人友人がいる、福島県産品等購入



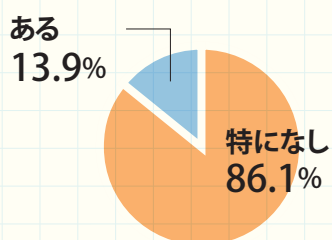
学生／北陸地方在住

インターンシップなどのイベントに参加したり、観光で訪れます。

地元で働くことに興味を持ち、今年も福島県主催のインターンシップに参加しました。

Q5. 現在お住まいの場所で、地域の活動との関わりはありますか？

36件の回答



関わりがある



学生／北陸地方在住

地域活性化を目指す商店街の雑貨店でアルバイトをし、イベントの運営補助を行っています。



学生／福島県内在住

ボランティア活動に週に1度、別のNPO法人で活動しています。



学生／福島県内在住

町内会が実施している、近所の清掃活動に参加しています。



Q6. インターンシップ事業での経験が、活かされた事例がありましたら教えてください。



学生／東北地方在住

昨年介護施設で1週間の実習があり、そこでNPO法人のボランティア経験を活かすことができました。相手を思いやる気持ち、周りをよく見ることで以前は自分のことで手一杯でしたが、少しは変わることができたように思いました。



会社員／首都圏在住

「気づき、考え、実行」という精神が仕事全てに生きている。



学生／福島県内在住

インターンシップで子どもと関わる体験を通して、自分自身の子どもの向き合い方や子どもに対する思いを磨けた。その経験から教員として働く意欲が高まり、実際に大学で学ぶまで発展した。



会社員／福島県内在住

現在、窓口でお客様対応をしているので、インターンシップで接客をした経験が活かされていると思います。



学生／福島県内在住

自然と学校以外での目上の立場の方々と会話できるようになりました。自然な敬語を身につけることもできたと思います。



学生／福島県内在住

子育て支援に携わりたいという思いが強まり、幼児教育などを学ぶときの向き合い方や考え方が変わったことです。



Q7. 修了生として、後輩インターン生に寄せる思いや期待のメッセージがありましたらお聞かせください。



学生／福島県内在住

大変なこともあるかもしれませんが、誰かのために、自分の成長のためにも頑張ってください。



学生／福島県内在住

このインターンシップに参加することは人生においてこれから私たちに必要となる大切なことを学べる素晴らしい経験になると思います。このインターンシップで学んだことを糧にしてこれから頑張りたいと思います。



公務員／東北地方在住

福島県の状況を知ること、今自分が何をすべきなのかが分かるようになります。自分の目標を叶える過程で、インターンシップをするというのは、大事な経験になると思います。



学生／福島県内在住

ローカルな活動なため、ミクロな視点で物事を考えがちですが、マクロ的視点を大事に活動してみてください。



学生／福島県内在住

とてもいい経験になると思うので頑張ってください。



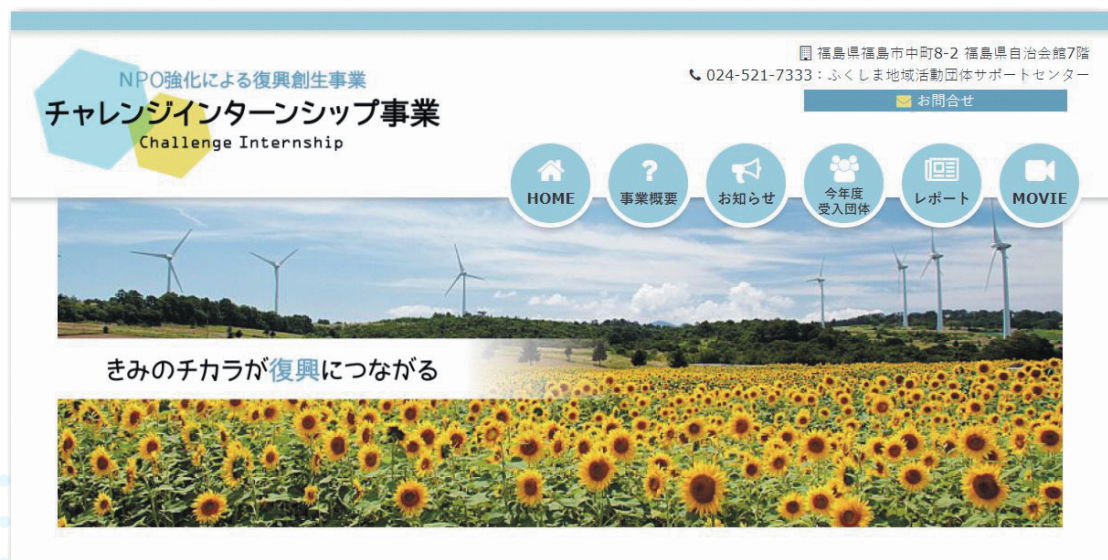
学生／福島県内在住

私は、昨年度NPOインターンシップに参加しました。1年半が経った今、私はNPOへ就職しようとしています。NPOインターンシップに参加したことが、今後の自分の人生を大きく変えようとしています。NPOインターンシップで学べることは、数多くあります。このインターンシップを通して、皆さんの人生がより豊かになりますように！

NPO × 若者
= 復興!!

これまでのチャレンジインターンシップ事業の活動の様子は
こちらからご覧いただけます

<https://f-intern.f-saposen.jp>



令和2年度
「チャレンジインターンシップ事業」
NPO強化による復興創生事業 事業報告書

令和3年3月26日発行

発 行	福島県企画調整部文化スポーツ局文化振興課 〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16 (県庁本庁舎5階) 電話 024-521-7179 FAX 024-521-5677
運営受託 事 務 局	認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター ふくしま地域活動団体サポートセンター 〒960-8043 福島県福島市中町8-2 福島県自治会館7階 電話 024-521-7333 FAX 024-523-2741

